

Ansesに関する主要データ

《フランスはAnsesにより、多分野横断的に、そして総体的にリスクを把握・理解することで、将来におけるリスクを予測し、日常的に人々を守ります。》

国立食品環境労働衛生安全庁 (Anses) は、2010年7月1日に発足した学術団体で、食品、環境、労働、動物の衛生・健康、植物衛生の分野に取り組んでいます。Ansesの中心的事業は、独立した多面的な科学的評価を実施して、衛生面でのリスクを評価し、管轄当局に公衆衛生を推進するための措置を提案することです。

当庁は、行政的性格を持つ公的機関であり、保健衛生、農業、環境、労働、消費を担当する複数の省庁の後見的監督下に置かれています。当庁には、理事会ならびに、民間の代表者が参加するテーマ別の5つの委員会が設置されています。また、当庁による質の高い独立した評価を保証する科学評議会によって支えられています。

当庁は、監視、評価、研究および基準確立という業務を実施することで、職場や移動中、レジャーの際の曝露、あるいは食品を通じての曝露など、人々が生活のあらゆる場面で意識的あるいは無意識に直面しうる(物理的、科学的、あるいは微生物による) リスク全体に取り組みます。こうした活動の基盤となるのは、専門家チームが実施する独立した多面的な科学的評価であり、そこにはリスクの社会経済的な側面も含まれています。

Ansesは、食品、動物の衛生・健康、植物衛生、環境、労働の分野における基準機関として知られており、様々な機関・団体と提携関係を結び、フランス国内、欧州および世界各地の研究プログラムに携わっています。

Ansesの存在により、フランスは、当該専門分野では欧州最大の衛生安全機関を擁していることとなります。

800
人の外部専門家が
専門家チームに参加

1350人の職員

+ 13800
以上の意見書を
発表 (1999年以降)

年間約250
の科学分野の出版物
を刊行

国のリファレンス
ラボラトリーとして
65件の委託
欧州および世界各地から
26件の委託

11の検査施設を
国内各地に設置

当庁の詳細と最新情報については、
次のウェブサイトをご覧ください：
www.anses.fr

© Anses Éditions janvier 2015 PARIS FRANCE

国立食品
環境
労働衛生
安全庁



Agence nationale de sécurité sanitaire de l'alimentation, de l'environnement et du travail
(国立食品環境労働衛生安全庁)
14 rue Pierre et Marie Curie / 94701 Maisons-Alfort Cedex / www.anses.fr / [@Anses_fr](https://twitter.com/Anses_fr)



anses
agence nationale de sécurité sanitaire
alimentation, environnement, travail

リスクを評価し公的活動を啓発する

国立食品環境労働衛生安全庁（Anses）は独立した科学機関で、その主な役割は、衛生面でのリスク評価を実施し、公的活動を啓発することです。当庁は、欧州および世界各地の同種の機関と密接に協力して業務を遂行しています。

公的活動を啓発する

Ansesは、その中心的事業として、衛生面でのリスク評価を実施することにより、公共機関の政策決定を啓発することです。人の健康、動物の衛生・健康、植物衛生を含む幅広い分野について絶えず監視を行っています。人々が日常生活、労働、移動、レジャーにおいて、また食品を通じて直面しうるリスク全体を評価します。また獣医用医薬品の分野でも専門能力を発揮し、さらにREACH（欧州化学品規制）に準拠して、殺虫剤やバイオサイド製品、化学製品の市場発売前の評価を実施しています。

卓越性、独立性、透明性

Ansesは、多面的かつ相反する見解を尊重した独立した科学評価を実施しており、様々な専門分野と出身の科学者を重視しています。当庁はその見解を公表し、非営利団体、科学団体、公共団体、組合、企業経営者といった各種関連団体、関係者と明瞭に情報を共有しています。そして、常に当庁インターネットサイトで研究結果を公開することにより、あらゆる人々への情報提供に貢献しています。

連携活動

Ansesは、国内はもちろん、数多くの欧州機関および国際機関と密接なパートナーシップを育んでいます。欧州諸機関ネットワークの活発なメンバーとして活動し、国際機関と連携することもあります。特に、リファレンスラボラトリーとして、欧州機関や国際機関（世界保健機関、国連食糧農業機関、世界動物保健機関）から26件の委託を受けています。フランス国内では、31の科学機関（保健機関や研究機関）からなるネットワークの調整役を務めています。

市民社会への開放

Ansesは設立当初から、一般の人々や利害関係者に対し、公的な議論の場での指標・基準となりうる科学情報を提供することを目標としてきました。そのため、様々な情報交換の場や情報伝達ツールを設けることによって、公衆衛生における推奨事項に対する理解と適応の推進に取り組んでいます。こうした考えから、様々な利害関係者（各種団体、NGO、労使、専門機関）が、特に当庁の活動の方針決定や活動プログラムの作成に携わる当庁の理事会およびテーマ別の5つの運営委員会のメンバーとして積極的に参加しています。これら利害関係者は、それぞれの専門分野に関連する問題を当庁に付託することができます。またAnsesは、他の提携科学機関と共同で「市民社会への開放憲章」を作成し、採択しました。この憲章には、市民との対話を強化するためのさまざまな取組みが含まれています。

国立動物用医薬品局 (ANMV)

Ansesは、フージェールに拠点を置く国立動物用医薬品局を通じて、動物用医薬品の分野を管轄しています。したがって、当庁は食品安全衛生全体にわたる集中管理を行うことができます。国立動物用医薬品局（ANMV）は、動物用医薬品の科学的評価、製造販売承認、および検査の責務を担っています。

独立した科学的な共同評価を実施

Ansesは、労働、環境、食品、動物の衛生・健康、植物衛生の分野に取り組んでいます。当庁では、独立した学際的、科学的な、そして基準となりうる共同評価を実施することにより、地域住民、労働者、消費者の安全の確保に貢献します。

適切なリスク管理のためのよりよいリスク把握

Ansesでは、公衆衛生推奨事項を策定するために、相反する意見を尊重した、独立した学際的、科学的な共同評価を実施しており、約20の専門委員会の支援のもとに、人文社会科学の専門知識を科学的評価に役立てるという方針を展開しています。こうして、医師、獣医師、薬剤師、化学者、生物学者、毒物学者、社会学者、統計学者、栄養士、環境エンジニアなど、多様な分野に携わる約800名の外部の専門家がAnsesに協力しています。これらの専門家は各自、利益相反に関する自己申告書に記入し、その申告書は公開されています。疑問や係争が生じた場合に備えて、またその解決を目的として、Ansesの管理部門からは独立した倫理・利益相反委員会が設立されました。

衛生面でのリスクを横断的に理解・解釈

- **食品安全衛生**：この分野におけるAnsesの活動は、第一次産業から食卓まで、農産物食品分野全体を通じた健康リスクおよび栄養特性についての評価で、特に国内にある当庁の各検査施設を基盤としています。一方で、実地調査を実施し、摂食行動の分析を通じたハイリスク層の同定などにも取り組んでいます。また、飲料水の安全衛生上の品質を評価することも、当庁の活動の一部です。

- **環境安全衛生**：生活環境汚染（大気、水、土壌）に関連する健康リスクを適切に同定するためには、環境が人の健康に及ぼす影響を評価することが必要です。Ansesは、癌疾患と環境、生物学的、化学的、および物理的因子への曝露、有害化学物質の使用規制など、こうした評価のためにさまざまな課題に取り組んでいます。

- **労働安全衛生**：化学物質の使用に起因する遅延型疾患のリスクを含め、職業病への懸念が重大な問題となっています。Ansesでは、労働環境における危険因子への曝露のメカニズム、および特定の職業に固有の健康リスクについての研究に取り組んでいます。職業関連疾患監視予防全国ネットワーク（RNV3P）をはじめとする画期的な評価方法およびツールを使用しており、これらを通じてサーベイランス戦略を策定することも可能です。

データの収集

Ansesは、各種サーベイランスやデータベースを活用し、様々な分野に関する定期的に更新されたデータを収集しています。例：

- > Oqali（食品品質観測所）：食品監視センターの栄養管理セクションで、食品栄養価の変化を客観的に評価することにより、食品に関する包括的な調査を実施しています。このセクションは、INRA（国立農業研究所）とAnsesが共同で運営しています。Oqaliは特に、1500以上の食品についての各種成分（炭水化物、タンパク質、脂質、脂肪酸、ビタミン、ミネラルなど）の含有量およびエネルギー価を表示したCiqual（食品品質データセンター）による一覧表を公開しています。

- > 残留農薬観測所（ORP）：動物および人に使用される農薬、バイオサイド製品、寄生虫駆除薬についての検討を行い、様々な環境における残留農薬に関する情報を収集、分析および活用しています。

- > RNV3P（職業関連疾患監視予防全国ネットワーク）：職業関連疾患についての国内データベース（患者の人口統計、疾患、曝露、産業分野、職業に関するデータ）を管理しています。収集されたデータは、職業関連疾患に関する知識の向上および、それらの疾患の監視（新たな状況、異常事態、重大な状況の検知）および予防の目的で使用されます。

人の健康、動植物の衛生に役立つ知識の向上

当庁は、国内各地に、当該分野に密着した11のリファレンスラボラトリーと研究所からなる検査施設ネットワークを有し、それらが、動物の衛生・健康、食品の安全衛生（化学薬品および微生物）、植物衛生という3つの主要分野で活動を行っています。

危険の特定

当庁の検査施設は、疫学、細菌学、抗菌剤に対する耐性、ウイルス学、寄生虫学、菌学、毒物、物理化学的汚染物質、動物の衛生・健康といった専門分野・領域において国際的に認められています。これら検査施設の役割は、評価、疫学的監視、警告、科学技術的助言提供を行うことであり、認定を受けた研究所の様々なネットワークからデータを収集することで、危険の特定において非常に重要な役割を果たしています。

リファレンスラボラトリーとしての活動を実施

Ansesの検査施設は、《国のリファレンスラボラトリー》（LNR）としての65件の委託と、国際獣疫事務局（OIE）、世界保健機関（WHO）、国連食糧農業機関（FAO）の協力センターやリファレンスラボラトリーを含む欧州レベル（LR-UE）および世界レベルの20件を超える委託を受けています。こうしたリファレンスラボラトリーとしての委託は、当庁の検査施設の持つ優れた能力、すなわち、新しい診断方法や分析方法を開発・実証し、全地域において均質で制御された衛生検査を行えるよう認定検査施設全体にそれらの方法を移転させる能力が特に評価されているためです。

これらの検査施設では、欧州および世界において疫病監視体制の開発も行っており、疫病の警告についての研究にも協力しています。

研究の支援と発展を推進し、

将来の専門家を養成

Ansesでは、動物の健康・衛生と食品の安全衛生に取り組む当庁の検査施設において、研究活動を指導するとともに、政府機関への科学・技術支援の一環として専門家の養成も行っています。また、環境・健康・衛生・労働に関する国内の研究計画を統括し、その枠内で、リスク評価において必要となる研究に限定した一件のプロジェクトの公募を毎年行っています。

Ansesの検査施設

植物衛生（アンジェ）、馬の病理（ドズレ）、獣医薬と消毒剤（フージェール）、動物の健康・衛生、抗生物質に対する耐性、食品衛生および植物衛生（リヨン）、水理（ナンシー）、狂犬病と野生動物（ナンシー）、動物の健康・衛生（メゾン＝アルフォール）、食品安全（メゾン＝アルフォール、および漁業生產品と水産養殖品についてはブーローニュ＝シュル＝メール）、家禽、豚、魚関連（ブルフラガン＝ブルザネ）、山羊の病理（ニオール）、反芻動物の病理と養蜂関連（ソフィア＝アンティボリス）。